

1. 地区の概況

図1 地区の位置 *地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成

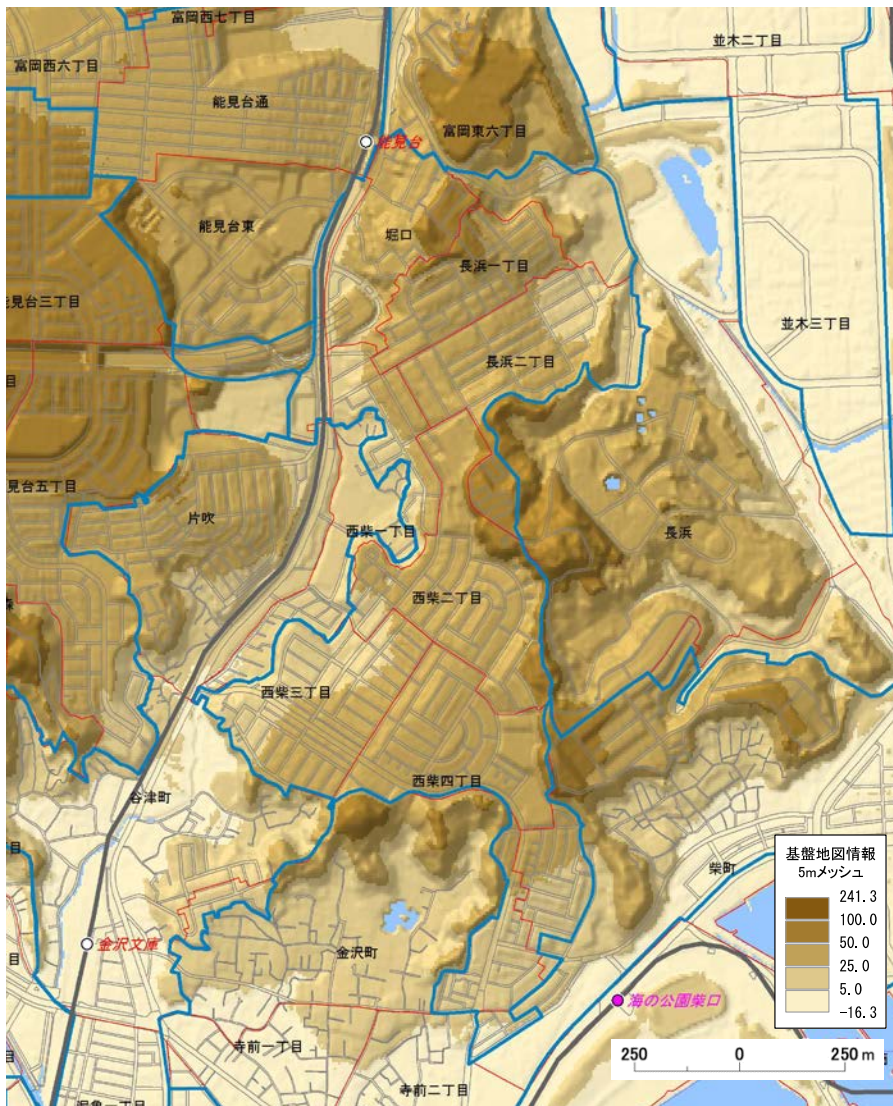


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成20	平成25	平成30	平成20 ~25年	平成25 ~30年	平成25 年比率	平成30 年比率	平成30年 区平均	平成30年 市平均
人口 (人)	11,361	11,253	10,802	▲ 108	▲ 451	100.0	100.0	100.0	100.0
0~14歳人口 (人)	1,589	1,387	1,174	▲ 202	▲ 213	12.3	10.9	11.6	12.4
(内0~5歳) (人)	482	414	427	▲ 68	13	3.7	4.0	4.1	4.7
15~64歳人口 (人)	7,229	6,921	6,493	▲ 308	▲ 428	61.5	60.1	59.5	63.4
(内20~24歳) (人)	583	580	660	▲ 3	80	5.2	6.1	5.3	5.3
(内25~39歳) (人)	2,023	1,618	1,367	▲ 405	▲ 251	14.4	12.7	15.1	17.8
65歳以上人口 (人)	2,671	2,945	3,135	274	190	26.2	29.0	28.9	24.2
(内65~74歳) (人)	1,423	1,399	1,428	▲ 24	29	12.4	13.2	14.8	12.1
(内75歳以上) (人)	1,248	1,546	1,707	298	161	13.7	15.8	14.1	12.1
世帯数 (世帯)	4,656	4,738	4,742	82	4				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.44	2.38	2.28					2.29	2.10

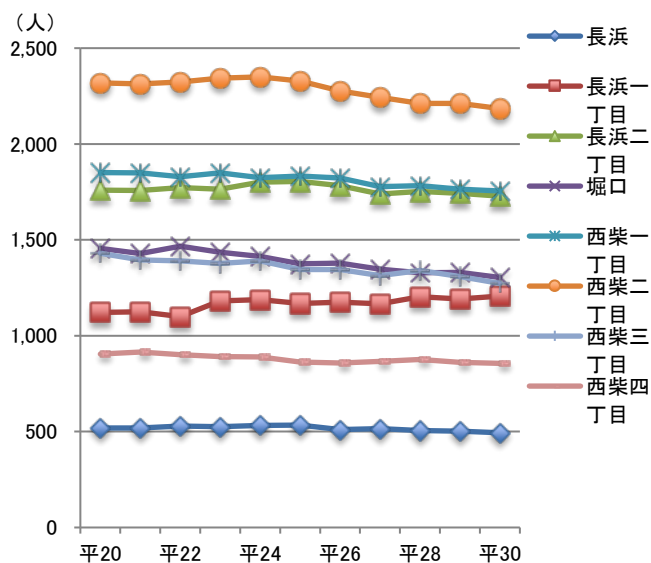
*「町別世帯と人口」、「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

*人口等の統計データは町丁目単位を集計されたデータを活用しています。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 *「町丁別世帯と男女別人口」による。各年9月末現在

図2 町丁別人口の動向



金沢東部地区には、平成30年9月末現在10,802人が暮らしています。世帯数は約4,742世帯、平均世帯規模は2.34人/世帯です。(表1参照)

平成25～30年の期間で見ると、人口は減少しており、減少傾向が強くなっています。一方、世帯数はわずかな増加になりました。

世帯規模は、縮小する傾向が続いているものの、平成30年の平均世帯規模は市の平均(2.10人/世帯)を上回っており、ほぼ金沢区の平均(2.29人/世帯)です。(表1参照)

平成30年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は、29.0%で市平均(24.2%)を上回っています。高齢化率は5年間で2.8%上昇しました。

0～14歳の人口(年少人口)の減少傾向はやや強くなっており、比率も低下しています。

15～64歳の人口(生産年齢人口)も減少が続いており、比率も低下しています。25～39歳(子育て世代)の減少がめだっています。(表1参照)

金沢東部地区には、8町丁が含まれています。

長浜一丁目は、人口、世帯数がともに緩やかな増加が続いています。

長浜二丁目も、人口、世帯数が緩やかに増加する傾向がみられましたが、平成25～26年には減少になりました。

その他の町丁の人口はおおむね安定又は緩やかな減少傾向が続いています。世帯数は安定しています。

(図2,3参照)

世帯規模は、近年は、いずれも緩やかな縮小傾向になっています。(図4参照)

図3 町丁別世帯数の動向

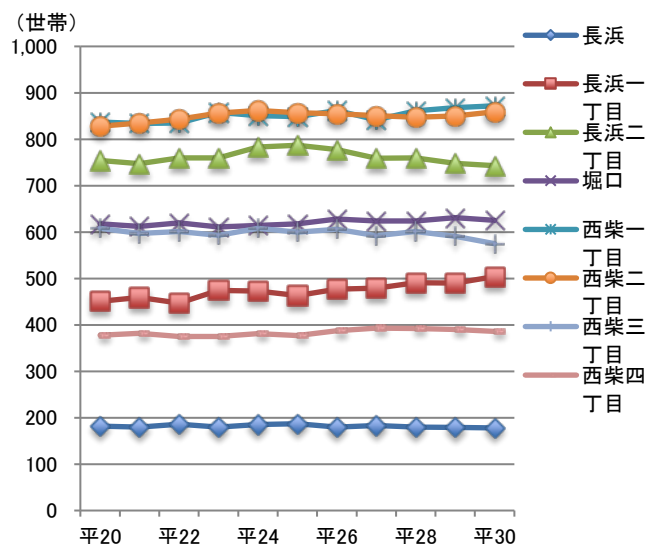
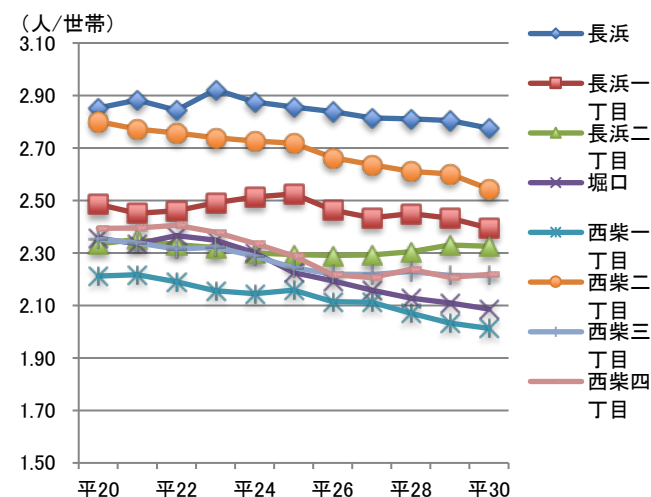


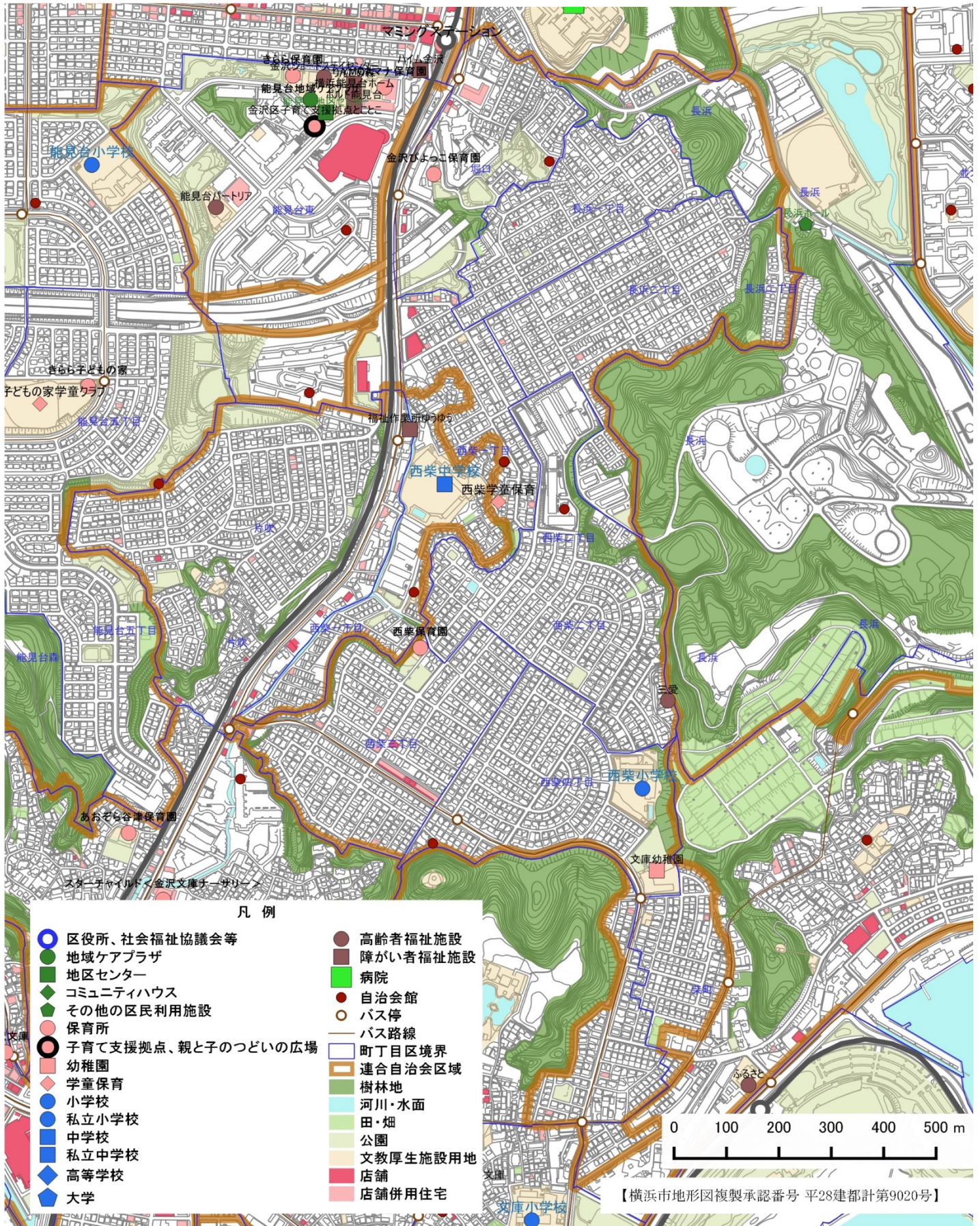
図4 町丁別平均世帯規模の動向



3. 地域の施設等の分布状況

図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



4. 年齢別人口と人口移動

*年齢別人口は「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在
 *移動人口は平成13～28年の人口移動集計結果による

図6 年齢5歳別の人口の変化

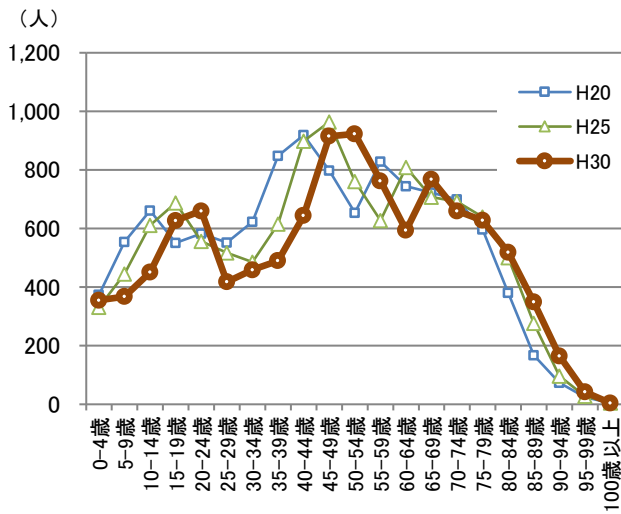


図7 年齢5歳別の人口の推移率

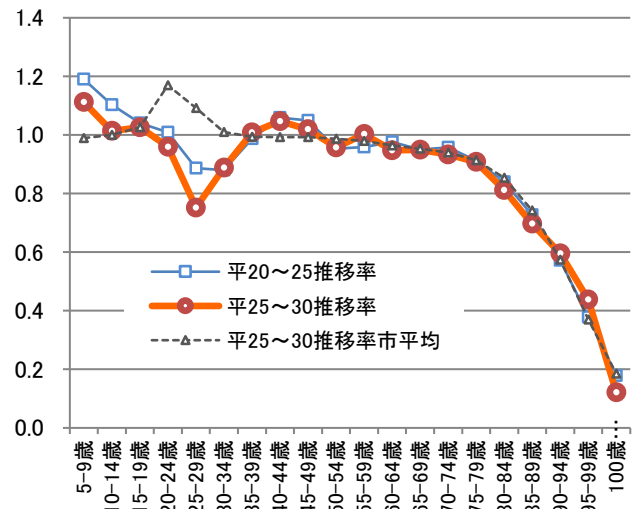
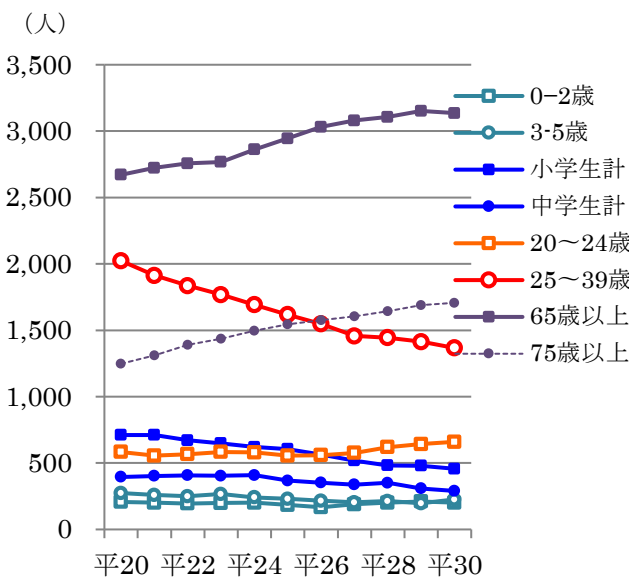


図8 年齢別人口の変化



*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合

金沢東部地区は 45～54 歳の人口が多くなっています。

25～39 歳の転出による減少が続いた結果、15～24 歳の人口が前後の年齢に比べて多くなっているという特徴があります。(図6、図9参照)

人口移動は平成15年までは転入が活発でしたが、その後は安定しています。(図9参照)

平成13、23年には20～39歳の転出による減少がみられましたが、平成28年には20～39歳の転出減少が弱まり、増加に転じていることがわかります。(図10参照)

図9 人口移動の動向

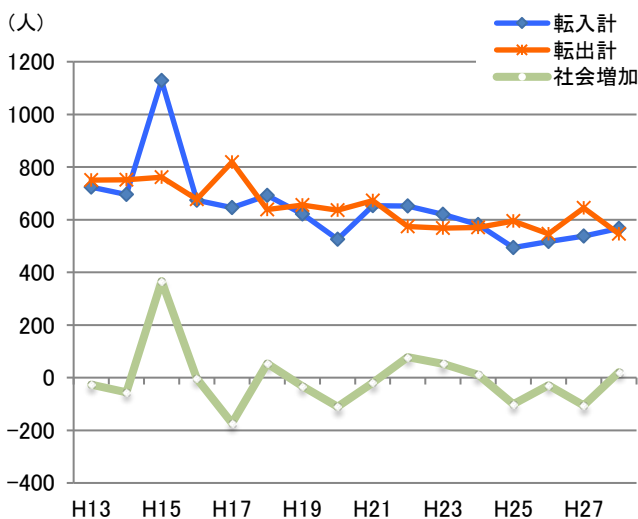
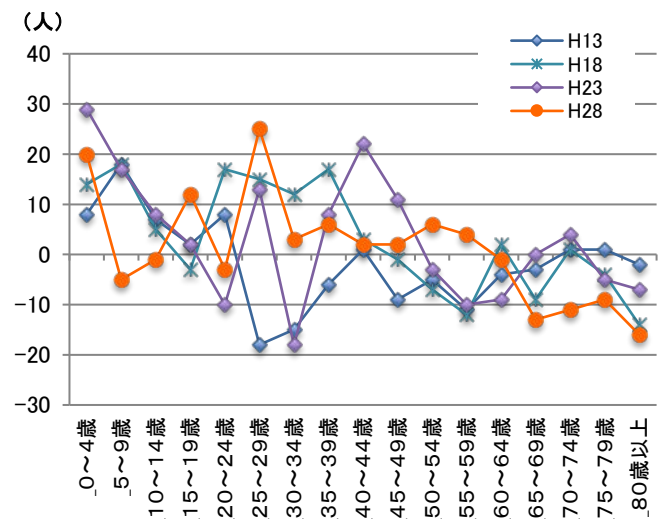


図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

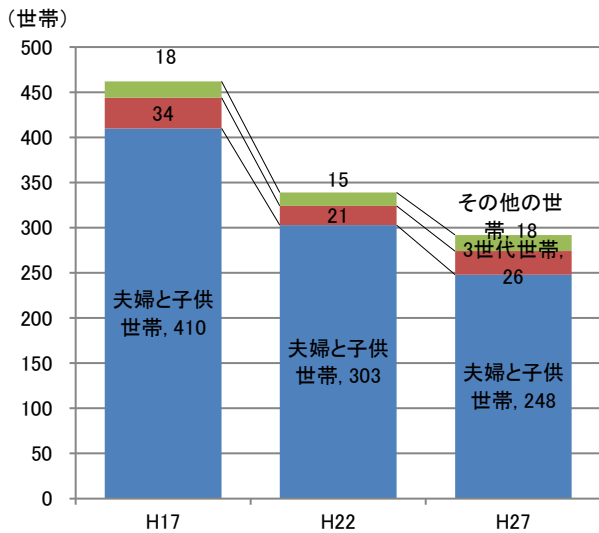


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

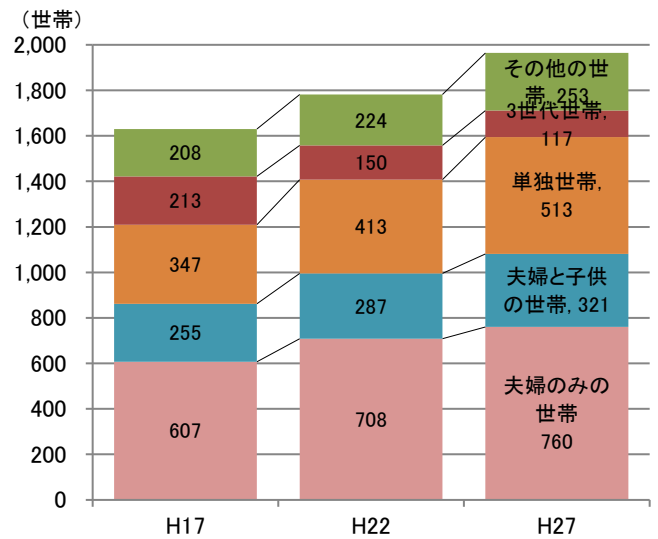


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

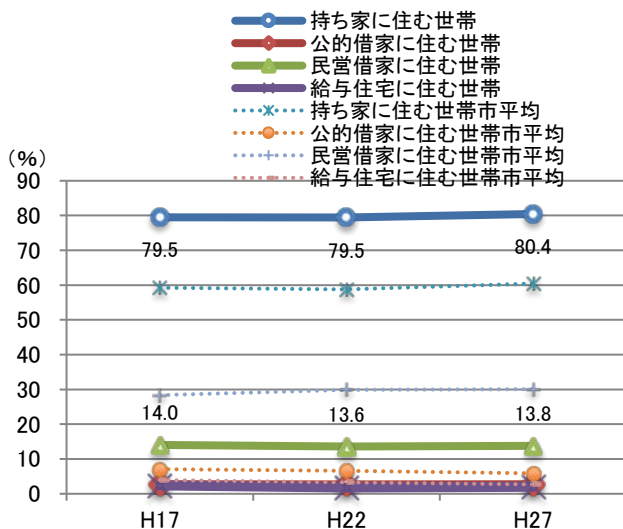


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合

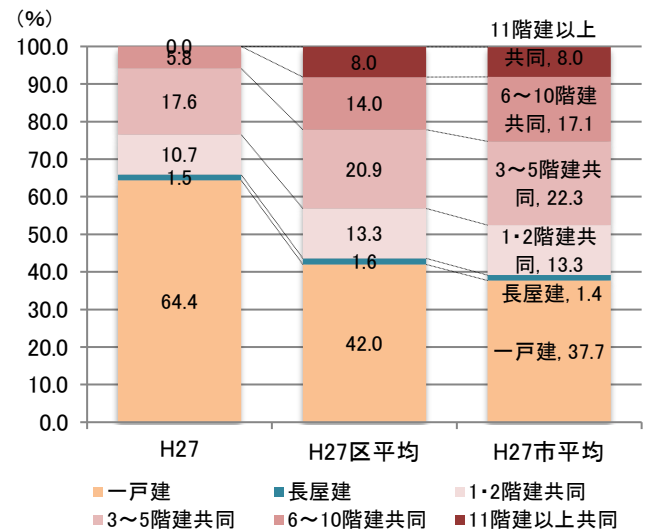


図 15 規模別世帯の動向

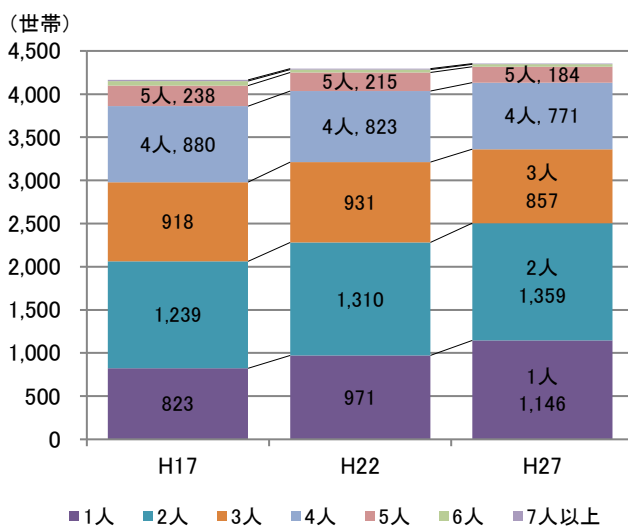
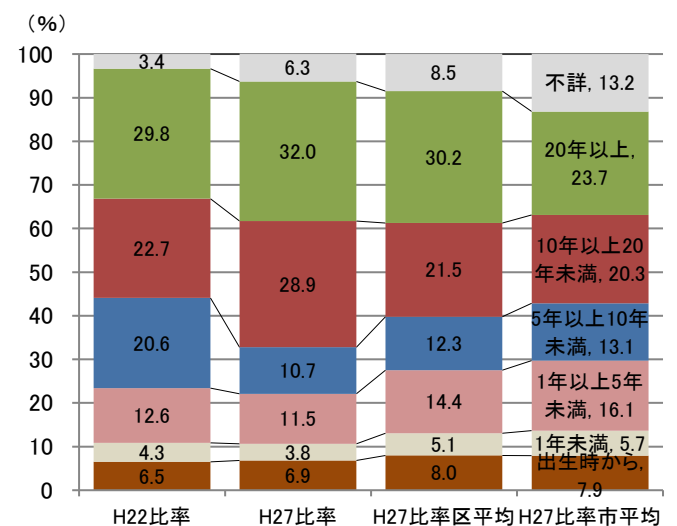


図 16 居住歴別人口の割合



6. 65歳以上の高齢者のいる世帯、要介護認定者数

表2 高齢者のいる世帯の状況 (H31)

	高齢独居世帯数 (男性高齢者)	高齢独居世帯数 (女性高齢者)	高齢者のみ世帯数 (単身世帯除く)	高齢者を含む世帯数 (高齢者と高齢者以外で構成)
世帯数(世帯)	163	590	776	1,371
対世帯総数比率(%)	3.4 (区平均 4.8)	12.5 (区平均 11.7)	16.4 (区平均 14.3)	29.0 (区平均 26.9)
対高齢者のいる世帯数比率(%)	11.9 (区平均 17.9)	43.0 (区平均 43.4)	56.6 (区平均 53.2)	100.0

*横浜市資料による。2019年3月時点。世帯数は住民基本台帳による

*高齢独居世帯は65歳以上の方1名で構成される世帯

*高齢者のみ世帯は、65歳以上の方のみで構成される2名以上の世帯

*高齢者を含む世帯は、65歳以上の方と、65歳未満の方で構成される2名以上の世帯

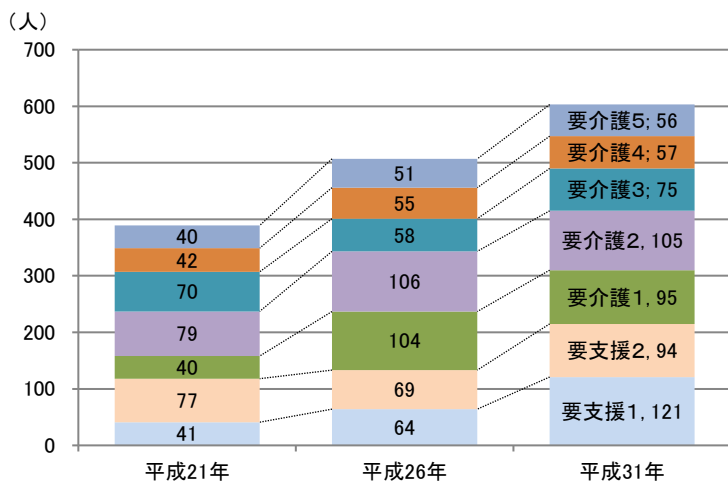
表3 要介護認定者数 (H31)

	計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
要介護認定者数(人)	603	121	94	95	105	75	57	56
人口比(%)	5.60	1.12	0.87	0.88	0.98	0.70	0.53	0.52
人口比区平均(%)	4.70	0.73	0.64	0.74	1.00	0.61	0.58	0.40
要介護認定者総数比(%)	100.00	20.07	15.59	15.75	17.41	12.44	9.45	9.29
区平均(%)	100.00	15.46	13.69	15.82	21.31	12.93	12.34	8.45

*要介護認定者数は、金沢区資料による。平成31年3月末時点

*地区別人口は、「町丁別の人口(住民基本台帳による)」により集計。平成31年3月末時点

図17 要介護認定者数の動向



*各年、要介護度別認定者数は金沢区資料による。

7. 地区の特徴と動向

金沢東部地区は京急線の東側の丘の上の住宅地を中心とした地区です。

戸建て住宅が多く、地区内に住む約64%の世帯が戸建て住宅に住んでいます。1・2階建ての共同住宅や中高層の共同住宅に住んでいる世帯もあります。(図14参照)

持家に住んでいる世帯が約80%を占めています。民間の借家に住む世帯は約14%あります。(図13参照)

居住期間が長い人が多くなっています。平成27年時点で、居住期間が「20年以上」(約32%)、「10年～20年未満」(約29%)はいずれも区の平均を上回っています。(図16参照)

6歳未満の子どもがいる世帯は減少する傾向があります。6歳未満の子どもがいる世帯は平成27年で約290世帯で、世帯総数(約4,350世帯)の約7%を占めています(区平均は約8%)。このうち約85%が核家族です。(図11参照)

65歳以上の高齢者がいる世帯は、増加する傾向があります。特に高齢者の単独世帯、高齢者の夫婦のみの世帯の増加が目立ちます。

平成27年で高齢者のいる世帯数は約1,960世帯で、世帯総数の約45%で区平均に比べてかなり多くなっています(区平均は約32%)。このうち、高齢者の夫婦のみの世帯は約37%、高齢者の単独世帯は約26%です。(図12参照)

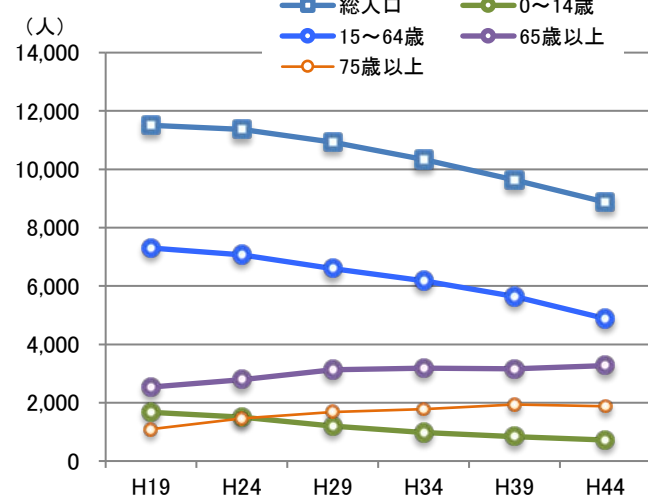
平成29年時点の高齢者のいる世帯の比率は約45%で、区の平均(約43%)を上回っています。(表2参照)

また、要介護認定者の人口比率は約5.4%で、区の平均(約4.7%)を上回っています。(表3参照)

現在は、40歳代とその子どもに弱い転入増加傾向がみられるものの、20歳代後半から30歳代後半が世帯から独立・分離し地区外に転出する傾向があるため、結果的に緩やかな人口減少が続いています。(図6,7参照)

現在の年齢5歳別の人口の変化の傾向が続くと、地区の世帯規模がまだ比較的大きい町丁もあり、世帯分離が続く可能性が残っていることから、今後も緩やかな人口減少が続きます。

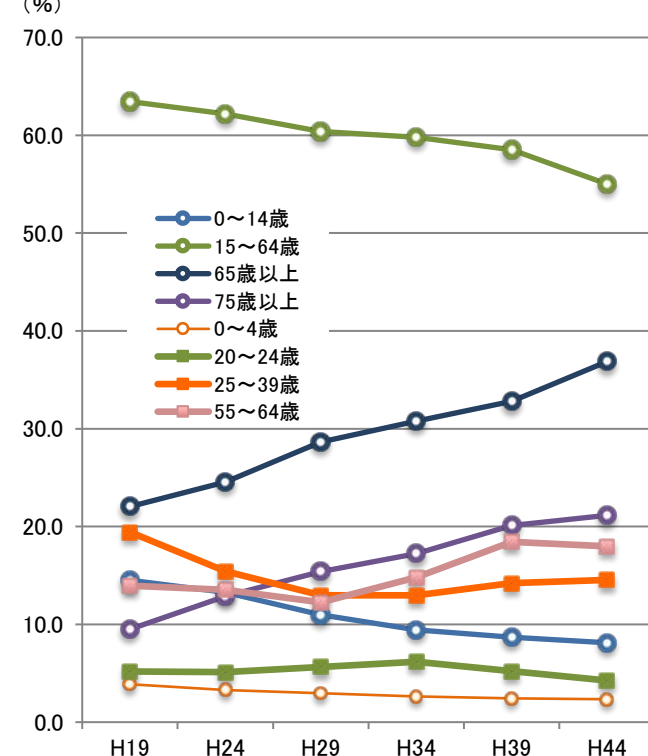
図18 人口の動向と推計



*平成24～29年の年齢5歳別人口の変化の傾向が続くものとして推計した値です。

*平成34年以降が推計値です。

図19 人口の動向と推計 年齢別比率



既に、高齢者の比率や、75歳以上の高齢者の比率が高くなっており、今後も高齢化はすすむもののその増加傾向はやや緩やかです。(図18、19参照)